

—関連施設だより—

近隣の甲状腺専門病院として

小野瀬裕之

医療法人社団金地病院

Thyroid Specialty Hospital near Nippon Medical School

Hiroyuki Onose

Kanaji Hospital

金地病院（写真1）は、昭和33年3月3日に伊藤病院に勤務していた故金地嘉夫が、甲状腺専門病院の初代院長として駒込の地に開業しました。開業後60年をすぎましたが、駒込駅東口徒歩1分という交通の便にも恵まれ、遠方からも多数の患者さまが通院されています。

病床数は38床（うち4床がアイソトープ治療室）で、主に甲状腺手術や放射性ヨウ素内用療法、重症バセドウ病症例などが入院しています。外科、内科、麻酔科、放射線科、耳鼻咽喉科の医師が勤務し甲状腺の専門医療にあたっています。各診察室に超音波検査装置を設置し医師自ら検査を行っています。特筆すべき設備としては、放射性ヨウ素内用療法を行うための放射線治療室、甲状腺癌に対する放射線外照射のためのリニアック、放射性ヨウ素内用療法後の撮像のためのSPECT-CT（写真2）を備えています。

日本医科大学とはつながりも深く、元第二外科主任教授で当院の名誉院長の清水一雄先生、元日本医科大学千葉北総病院院長で残念ながらお亡くなりになった井上哲夫先生が長く勤務され、そのご縁で、第三内科出身の私小野瀬と石井新哉先生、日本医科大学麻酔科出身の後藤真弓先生が勤務しています。また、日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科の木村真人教授に週一回外来をお願いしています。2019年より日本医科大学の糖尿病内分泌代謝内科・内分泌外科からいらした若い先生方に、甲状腺診療の一翼を担っていただいています。

近年の甲状腺をめぐるトピックスとしては、頸部エコー検査をはじめとした画像検査の大幅な進歩により、甲状腺腫瘍の発見頻度が増加したことがあげられます。甲状腺腫瘍の進行は、多くの場合緩徐ですが、1 cmを超える充



写真1



写真2

連絡先：小野瀬裕之 〒114-0015 東京都北区中里1-5-6 医療法人社団金地病院

URL：https://www.kanaji.jp

E-mail：onose@nms.ac.jp

Journal Website (https://www.nms.ac.jp/sh/jmanms/)

実性腫瘍や辺縁が不整で微小石灰化を伴い甲状腺乳頭癌が否定できない腫瘍などは細胞診が必要となります。担当の外科医師が週4日穿刺吸引細胞診を実施しています。手術症例は、原則造影CTで転移の有無を評価し、術前カンファランスで術式を決定し手術を行っています。当院は、放射性ヨウ素内用療法が可能な病室を4床備えており、進行癌症例を中心に積極的に放射性ヨウ素内用療法を実施しています。また、放射線ヨウ素内用療法に抵抗性の甲状腺癌患者では、レンピマをはじめとする分子標的薬による治療を導入しています。合併症のため当院で手術を行うリスクが大きい場合は、大学病院に手術を依頼しています。内科疾患では、難治性のバセドウ病や抗甲状腺薬の副作用症例を中心に、放射性ヨウ素内用療法もしくは外科手術をおこなっています。心房細動や心不全合併症例では、大学病院や近隣の施設と連携をとり診療を行っています。甲状腺疾患は女性に多く、妊娠合併症例ではきめ細かな甲状腺機能のコントロールが要求されるため、他院からご紹介いただくことも多くなりました。

甲状腺疾患の治療は生涯にわたることが多く、通院されている間にさまざまな合併症をおこす患者様が多くおられます。そのため、日本医科大学にも一部の患者様をご紹介しています。今後も、大学の近隣にある甲状腺専門病院として、日本医科大学と連携を取りながら努力していく所存ですのでどうぞよろしく願いいたします。

(受付：2021年4月27日)